

会議名	第4回新城市公共施設再配置計画検討委員会		公開
日時	令和7年8月26日(火) 午後6時30分～午後8時23分	場所	市役所本庁舎 4階会議室
出席者	(委員) 杉木直、吉村輝彦、伊藤雅朗、村松昂章、浅井泰博、片桐幹久、 河村晶子、河合好彦、岡山ひろみ オンライン出席		
	(事務局) 総務部：佐藤部長 資産管理課：野澤課長、竹下副課長、三輪主任、鈴木主任、山本主任、 大岩主事		
	(支援委託業者) ランドブレイン株式会社名古屋事務所：伊藤、谷口		
欠席者	垣内隆由	傍聴者	なし
配布資料	第4回新城市公共施設再配置計画検討委員会 次第 資料1 - 1 検討の進め方(本日の位置づけ) 資料1 - 2 委員意見検討一覧表(第3回検討委員会の意見と対応) 資料2 - 1 地域別ワークショップ プログラム 資料2 - 2 地域別ワークショップ 開催結果(各2回分) 資料2 - 3 地域別ワークショップ ニュース(各2回分) 資料2 - 4 第2回ワークショップ まとめ 資料2 - 5 第3回作手地域ワークショップ おしながき 資料3 - 1 現行計画の評価(施設別・更新版) 資料3 - 2 新城市公共施設等総合管理計画(中期計画・素案) 資料3 - 3 公共施設再編に向けた方向性(検討資料)		

### 議題・議事・発言等(要点記録)

#### 1 開会

##### (1) 開会宣言

事務局	事務局から開会宣言を行った。 出席状況を確認し、委員9名の出席を把握した。
-----	--

#### 2 議事

事務局	本委員会は原則として公開である旨を説明した。 また、会議録の公開にあたり、本委員会の内容を録音する旨を説明した。 議題の進行について、杉木委員長に依頼した。
-----	--

( 1 ) 前回の振り返り

事務局	資料 1 - 1 に基づき、「本日の位置づけ」について説明した。 資料 1 - 2 に基づき、「第 3 回検討委員会の意見と対応」について説明した。
-----	---

議事 ( 1 ) について、委員から質疑なし。

( 2 ) 市民参加の開催報告

事務局	資料 2 - 1 に基づき、「地域別ワークショップのプログラム」について説明した。 資料 2 - 2 および 2 - 4 に基づき、「第 1 回・第 2 回地域別ワークショップの開催結果」を報告した。 資料 2 - 5 に基づき、「第 3 回地域別ワークショップの内容」について説明した。
-----	--

< 質疑応答 >

委員	資料 2 - 1 について質問。第 3 . 5 回ワークショップではどのような内容を想定しているか。
事務局	第 3 回の提案内容をもとに事務局で作成する素案をさらにブラッシュアップすることと、第 4 回に向けた発表の準備を行うことを考えている。なお、第 3 回では、地域ごとにマップを用意し、意見や提案を書き込んでもらう想定である。
委員	プチレクはどのような内容で進めるのか。
事務局	ワークショップを通して見えてきた各地域が掲げるビジョンや公共施設再編に関する提案を共有する予定である。
委員	ワークショップで提案された内容と市の考えが乖離した場合、どのようにプチレクで落とし込むのか気になった。
事務局	乖離が生じることは理解している。参加者と一緒に計画をつくりあげるところを大事にしながら進めていく。
委員	すり合わせしながら意見をまとめていくことが重要と考えている。

委員	ワークショップに参加した感想を事務局から聞きたい。 また、感想にはなるが、計画策定にあたり、ワークショップというプロセスを通じて行政と市民とが相互理解を深めていくものであると考えている。 その点を踏まえ、行政ができることと、市民ができることを確認しながら進めていければ良いと思う。 一方で、計画策定後に地域や市民とどうやって進めていくかが重要だと考えている。
----	--

事務局	ワークショップでは、前向きな意見が多く、良い雰囲気で行っている印象。しかし、公共施設再編の話題についてはまだまだである。今後は、参加者の「やりたいこと」と公共施設再編が上手く結び付けられると良い。また、参加者の提案と市の考えが乖離しないような配慮は必要だと認識している。
委員	ワークショップに参加されている委員からの感想はどうか。
委員	事務局の感想と同じく、ワークショップでは前向きな意見が多かった。一方で、どう公共施設再編に結び付けていくかが課題であると認識している。また、地域を良く知る参加者からは施設の活用方法に関するアイデアが積極的に提案されていた。
委員	雰囲気自体は賑やかで、参加者も前向きという印象を持っている。現実的な話し合いを行う検討委員会と比較すると、ワークショップは夢を語る場という認識。 ワークショップで生まれた参加者同士のつながりを今後も活用できればと考えている。
委員	活用のアイデアが出ているのはワークショップならではのと感じた。一方で、そのアイデアが要望になっている場合は心配が必要である。そのあたりはいかがか。
委員	ブチレクのなかで、ワークショップ参加者が中心となって施設の管理運営を行っている事例紹介があり、新城市もそのような形で、集まれる場をつくることができれば良いと感じた。
委員	全4回のワークショップで議論が煮詰まる可能性やワークショップ参加者の熱量を考えると、その後も一定期間を設けて、参加者が引き続き、どのような方向性で地域の公共施設再編を進めていくか議論ができるような機会が必要と考えている。その際に、会場の外からでも意見交換を可能にするツールとしてオンラインで何か活用できないか。
事務局	ワークショップ終了後も参加者どうして議論ができるように、コミュニケーションツールを市が用意できるか検討する。
委員	新城市のなかで地域活動に対する交付金があると聞いたが、市へのプレゼンを通して、地域ごとにワークショップの運営費を交付金としてもらうことは可能か。
事務局	地域活動交付金と認識。市民自治推進課が管轄している。 特にソフト的な案については、継続的にできるよう市がサポートする形で何かできないか、次回のワークショップ以降、全庁的に対応を進める姿勢。

委員	<p>行政との対話について、行政サービスの仕組みやシステムは、市民にとって理解しにくい側面があり、公共施設再編を進めなければ市民に十分な福利厚生サービスを提供できなくなるという危機感が伝わりきれていないのではないか。</p> <p>現状を正しく共有し、市民に危機感を持ってもらう機会をつくる必要がある。そのためには、市の置かれている状況を率直に伝える対話が求められる。</p>
事務局	<p>第1回ワークショップでは、市の現状を説明した上でグループワークを行った。</p> <p>第3回に向けては、改めて危機感を共有できるような視点を重視し、内容を検討していく。</p>
委員	<p>市が主催の会議である若者議会、女性議会、市民まちづくり集会があると認識している。そのような会議で出された意見・情報は資産管理課に共有されているか。</p>
事務局	<p>現時点では、公共施設マネジメントに関する意見・質問はなし。一方で、市民まちづくり集会で取り上げてほしいテーマについて資産管理課が公共施設のあり方を提案し、採用された経緯がある。</p>
委員	<p>議会や議員から公共施設マネジメントの進捗状況に関する意見・質問はあるか。</p>
事務局	<p>議会からは質問をもらっている。また、ワークショップに参加・見学している議員があり、公共施設マネジメントに対する興味・関心は高いと感じている。</p>
委員	<p>議会だよりを確認したが、議員からの質問は少ないと感じている。</p>
事務局	<p>公共施設マネジメントに興味のある議員には理解してもらっていると認識。</p>
委員	<p>他の委員からも質問があったように、市の現況を理解してもらうための機会がどこかのタイミングで必要と考えている。</p>
委員	<p>市が担うべきこと、地域に協力をお願いすること、地域が主体的に取り組んだ方が効果的なことなどを整理し、市としての考えを並行して検討していく必要がある。</p> <p>例として、施設の掃除・点検・一部管理業務、民間への施設譲渡の可能性、施設ごとに実施可能なものと不可能なものの区分などが挙げられる。</p> <p>次回のワークショップでは、こうした役割分担の考え方に加え、具体的な事例を示しながら再編手法を説明できると効果的ではないか。</p>

事務局	行政・民間・地域それぞれの特性を活かし、どのような場面で最大限の役割を果たせるのかを、再編手法とあわせて整理していく必要性を認識している。
委員	機能集約の具体的な手法については参加者からアイデアを募る一方、集約対象となる施設の整理については行政が担うなど、役割分担が必要。
委員	検討委員会での議論が難しい高度専門的な施設については、どの範囲を委員会で検討対象とするか、整理が必要。
委員	解体費用が高騰している現状を踏まえ、必要性が低い施設については、計画的に早い段階で解体の方向性を示すことも検討すべきではないか。
委員	他市町では、解体予定の施設を消防や自衛隊の訓練施設として活用する事例も見られる。

(3) 新城市公共施設等総合管理計画の改訂及び新城市公共施設個別施設計画(第2期)策定について

事務局	資料3-1に基づき、「現行計画の評価(施設別・更新版)」について説明した。 資料3-2に基づき、「新城市公共施設等総合管理計画(中期計画・素案)」の前回からの変更点について説明した。 資料3-3に基づき、「公共施設再編に向けた方向性(検討資料)」について説明した。
-----	--

< 質疑応答 >

委員	資料3-1について質問。個別施設計画(第1期)の期間はいつか。 また、(2)「個別施設計画(第1期)の評価」の備考欄は、資料内容が随時更新されていくという認識で良いか。
事務局	資料3-2の3ページに記載のとおり、期間は平成29年度から令和8年度まで。備考欄については、随時更新されていくという認識で問題ない。
委員	資料3-3について質問。「民間事業者にて利用予定の施設」となっている施設の状況について説明してほしい。
事務局	旧巴小学校(作手地域20)は、今年度から実施している民間提案制度を通じて1事業者から提案があり、現在協議中。 旧開成小学校(作手地域19)も同制度を活用し、募集や地域合意形成を進める方向。 旧黄柳野小学校(鳳来地域20)は、豊川市・新城市などで構成する協議会がドローン研究・事業に活用している。
委員	民間提案制度における「民間」とは、公共サービスを提供する事業者なのか、それとも施設を除却して跡地を企業活動に利用する事業者なのか。

事務局	対象施設は主に学校教育施設。地域の思いが詰まった施設であるため、単純に売却はせず、地域貢献や地方創生に関わる事業を条件に募集している。 旧巴小学校については地域・市・事業者の3者協議を進めており、8月23日に説明会を実施したが否定的意見はなかった。
委員	旧巴小学校は具体的にどのような提案だったのか。
事務局	旧巴小学校は農業振興の拠点化、旧開成小学校は営利目的にとどまらず地域拠点化を志向している。両校は防災拠点機能を持つが、譲渡により機能がなくなることは地域と合意済み。 鳳来地域についても、施設機能を空にしたうえで民間へ渡す方向で進める。地域合意を得てから貸付を行うことがポイントである。
委員	旧巴小学校の内容を(2)に追記すべきではないか。また、民間提案制度は賛成だが、延床面積削減方針と矛盾しないか。
事務局	(2)への記載は事務局で再確認する。 民間貸付施設については市が維持管理費を負担せず、結果的に維持管理費削減に繋がる。
委員	目標設定は、延床面積30%削減から維持管理更新費用30%削減へとシフトしており、問題はないと考える。
委員	資料3-2について質問。庁舎等の延床面積が大幅増となり、全体では4.5%減に留まっている。庁舎を除けば大幅削減の可能性もあり、見せ方を工夫すべき。 また、除却の遅れは資料から分かりにくく、修正が必要。 計画の核心は1-7や3-3にあると考える。地域にとって公共施設の意味を踏まえ、新都市の具体イメージを盛り込むべき。従来型の再編に留まらず、もう一步先を描くことが重要。 また、資料3-2の推進体制は従来型のPDCAに見える。市民の動きや官民連携を踏まえ、柔軟なサポート体制を備えた推進体制にすべきではないか。計画は1期・2期で完結せず、随時アップデートや民間アイデアの導入があつてよい。 委員会やワークショップの議論を活かし、他都市にない特色ある計画とすべき。
委員	次回ワークショップでは資料3-3を参加者に提示するのか、それとも例示資料か。
事務局	例示資料として提示予定。
委員	資料3-2の1-6、1-7については、吉村委員の意見を踏まえ、表現を

---

	工夫すべき。目標設定は延床面積削減から維持管理費削減にシフトしているが、その説明が弱く、ネガティブな印象がある。 また、資料10ページの「民間事業者に開放」の説明は、資料3-3の「民間活用」とは区別して説明すべき。施設再編の軸はPFI/PPPよりも地域との協定になるのではないか。ワークショップでも手法3が多く、PFI/PPPは現実的でないため、この点を明確に示す必要がある。 これらを踏まえ、第3回ワークショップの検討を進めてほしい。
--	--

---

### 3 その他

#### (1) 今後の予定について

事務局	今後の予定について説明した。 次回の検討委員会は12月15日(月)の開催を予定している。
-----	---

---

### 4 閉会

事務局	事務局から閉会の挨拶を行った。
-----	-----------------

---

以上